

## My Best Memory

藍住中学校 榊 菜奈

オーストラリアでの生活は、今までにないぐらい楽しく、あっという間の10日間でした。

現地に行って最初に驚いたことは、周りを見渡すと、英語だらけだったことです。当たり前なことだけど、海外に来たんだという実感がわきました。それと同時に、日本語が通じない国で生活できるのかという不安もわいてきました。

いよいよホストファミリーと対面するという時は、ドキドキしました。

ホストファミリーは、笑顔で私達のことを迎えてくれました。

最初は英語が全く分からず、頭がパンクしそうでしたが、徐々に英語に慣れてきて、楽しく会話ができるようになりました。日が経つにつれて、ホストファミリーとの距離も縮まっていきました。一緒にカードゲームをしたり、日本の遊びを教えたり、日本の映画を観たりしました。日本語の映画を観ていても、時々、日本語の音声が英語に聞こえて面白かったです。

ホームステイ先では、ホストマザーが、料理を作る時に、積極的に手伝いをしたり、後片付けをしたりすることを心がけました。また、会話も自分が知っている限りの単語を並べて、頑張っって自分から話を振れたことによって、自信もついていきました。



学校では、「モーニングティー」という時間がありました。家から持参したお菓子やフルーツ、売店で買ったお菓子などを食べる時間です。モーニングティーの時間になると、バディの子が迎えに来てくれて、外に出て、お菓子を食べながら、色々な話をしました。日本語も教えました。最初は質問してくれたことに対して、「Yes」、「No」ぐらいでしか答えられませんでした。が、だんだん反応のレパートリーも増えていきました。そして、相手の子からの質問を待つだけでなく、自分から質問をすることも出来るようになってきました。

バディじゃない子からも声をかけてきてくれて嬉しかったです。午前の授業では、英語の勉強をしました。午後は向こうの生徒の人達とバレーボールをしたり、ダンスをしたりしました。外国人は身長が高いため、バレーのネットが高く、バレーをするのも苦戦しました。ダンスの授業は、日本とは少し違って、男子と手をつないで踊るという形でした。

日本とは異なる、貴重な体験が出来ました。

学校最終日は、バディ達とハグをしてお別れしました。お別れするのはとても悲しかったです。

海外派遣の便りを見た時、「楽しそう！行ってみたい！」と思い応募した今回のオーストラリア研修でしたが、想像を超える楽しさでした。本当に行けてよかったです。

